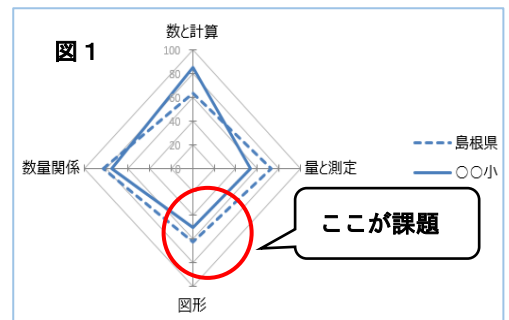


2 学級ごと・教科ごとの学力の状況はどうなっているか？

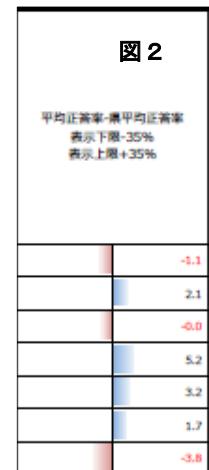
① カテゴリーごとの正答率一覧、正答率度数分布で、学級の全体の状況を把握

自分が授業をしている学級のおおまかな状況を把握するためには、「カテゴリーごとの正答率一覧」を活用します。この帳票にはカテゴリー（領域別、観点別、問題形式別、問題内容）の結果がまとめられています。この帳票の右にあるグラフには、学級平均正答率を県平均正答率と比較して表示してあります。（図1は領域別の例）極端に低くなっている場合には、その領域の学力の定着に課題があると読み取ることができます。また、「正答率度数分布」には正答率別の割合が県との比較でまとめられており、学力層からみた学級集団の状況を捉えることができます。



② 設問情報一覧で、問題ごとの状況を把握

問題ごとにどのような課題があるかを把握するためには、「設問情報一覧」を活用します。設問情報一覧には、問題ごとに学級の平均正答率を、県平均正答率と比較してあります。（図2）県平均正答率に比べて極端に低くなっている問題については、課題があると考えられます。



③ 設問ごとの解答傾向一覧（帳票）で解答傾向を把握

設問情報一覧で課題があった問題を中心に、子どもたちがどのような誤答をしているのかを確認するために、「設問ごとの解答傾向一覧」を活用します。

類型番号0が正答（正答が複数設定されている場合もある）で、その他の解答をした児童生徒の割合が類型ごとに示されています。

（図3）調査結果資料ROMに収めてある解答類型と照らし合わせると、課題があった問題について子どもたちがどのような誤答をしているかを把握することができます。何をどう間違えたか、なぜ間違えたかを分析することで、今後取り組むべきことが明確になります。

図3

	類型番号									
	0	1	2	3	4	5	6	7	その他	無解答
85.0									10.0	5.0
25.0	25.0	20.0	30.0							
15.0									50.0	35.0
65.0		25.0	10.0							
35.0	50.0	10.0	5.0							
10.0	65.0								15.0	10.0
65.0									25.0	10.0
35.0									45.0	20.0
15.0	20.0	45.0	20.0							5.0

ここが課題！つまずきに対する指導が必要！

領域：伝統的な言語文化と国語の特質
出題内容：第5学年配当漢字を正しく読むことができる。

	解答内容（類型）	校内集計		県内集計
		人数	%	%
0	正答	31	54.4	75.6
1	誤答	18	31.6	15.1
2	誤答	1	1.8	1.3
8	その他	5	8.8	6.0
9	誤答	2	3.5	1.9

3 子ども一人一人の学力や生活意識の状況はどうなっているか？

① 返却される個人票

個人成績表	個人の教科別の正答率、観点別正答率、領域別正答率などを、県平均正答率と比較して表示したもの。
--------------	--

紙媒体は返却用の1部ずつですが、個人票のPDFデータは結果資料ROMに収納されていますので、いつでも確認することができます。**デジタル答案**及び**フォローアッププリント**は結果資料ROMに格納されていますので、適宜事後学習、事後指導に役立ててください。個人成績表と子どもたちの解答・回答状況をまとめた「設問ごとの個人別解答状況一覧」「質問ごとの回答傾向一覧」によって、子どもたちの状況を把握することができます。

② 個人成績表とデジタル答案で一人一人の状況を把握する

「**個人成績表**」には、各教科ごとにその子自身の正答率と県平均正答率が比較できるようになっています。また、領域別・問題別のその子自身の結果と県平均正答率も比較できるようになっています。個人成績表にどのように記載されているかを確認し、結果を前向きに受けとめて今後に生かしていくための支援をしていくことが大切です。「**デジタル答案**」は、子どもたちの答案がそのまま印字されており、正誤を具体的に確認できるようになっています。正解ではなかった問題に対して、「なぜ正解ではなかったのか」を児童生徒と一緒に確認し、間違った問題についての復習を促すなど、事後学習に生かしてください。

③ フォローアッププリントを活用し、学力の定着を図る

「**フォローアッププリント**」(図4はその例)は、各学年教科ごとにいくつかの問題を収納しています。必要に応じてご活用ください。

1 地層について、次の問いに答えなさい。

図4

(1) 地層に横からおす力や引っばる力がはたらくと、地層がずれることがあります。このずれた面を何といいますか。



(2) 地層が堆積した当時の環境が推定できる化石を何といいますか。

(3) 地層が堆積した年代が推定できる化石を何といいますか。

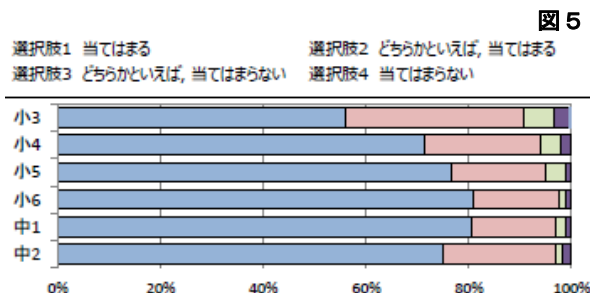


1	
(1)	
(2)	
(3)	

4 学級（全体）の生活・学習に関する意識はどうなっているか？

学級、学年、市町村、島根県の「質問ごとの回答傾向一覧」を見比べ、生活習慣、学習習慣、授業に対する意識などから学級としての改善点を見出していきます。

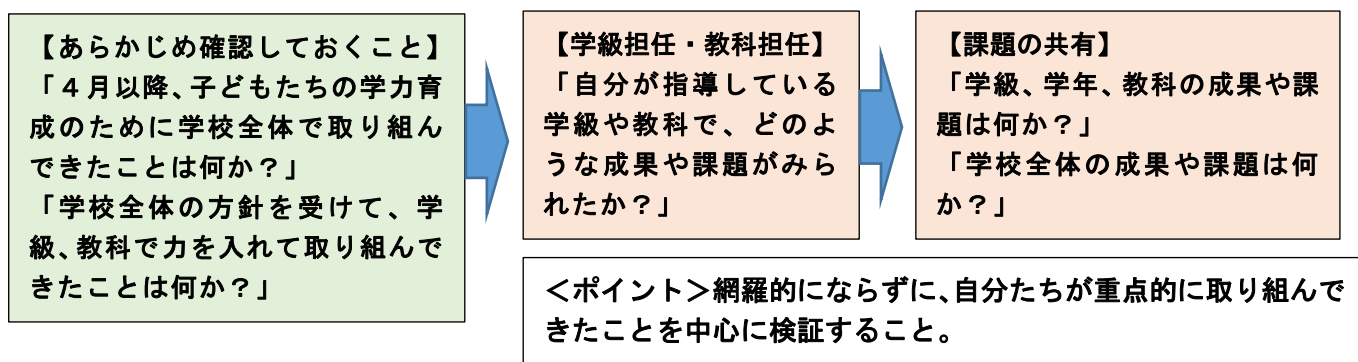
生活・学習に関する意識調査は、教科に関する調査では測りにくい「学ぶ力」の状況把握や授業改善のために活用できることを第一に考えて作成していますが、学級集団づくりや生徒指導、ふるさと教育などに関する質問項目もありますので、幅広く活用ください。「質問ごとの回答傾向学年推移一覧」には、小学校第3学年から第6学年、中学校第1学年と第2学年の状況をまとめて表示してありますので、学校全体の状況を学年間で比較することができます。（図5）



5 まとめ～今年度の取組の成果と課題を学校全体で共有するために～

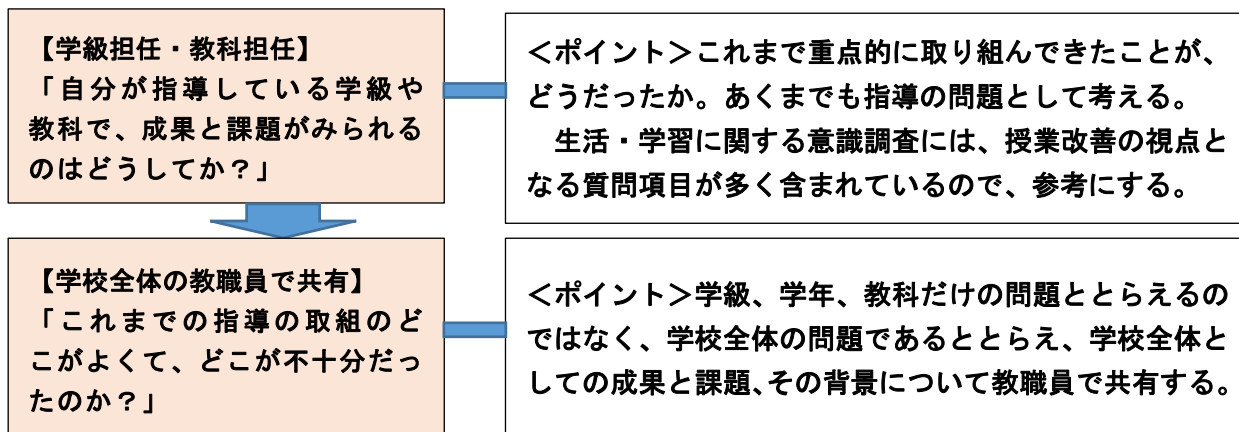
これまでも全国学力・学習状況調査や島根県学力調査から成果や課題を見出し、そこから改善策を考える取組が行われています。県学力調査の分析では、現在の教職員集団による今年度の取組を踏まえた改善策を考えることが重要です。

「4月以降、子どもたちの学力育成のために学校全体で取り組んできたことは何か?」「学校全体の方針を受けて、学級、教科で力を入れて取り組んできたことは何か?」ということが、成果（強み）や課題（弱み）をまとめるベースとなります。これをベースとしながら、自校の子どもたちの学力の成果（強み）と課題（弱み）をまとめるための一般的な流れは次のようになります。



ステップ2 【成果と課題の背景についての考察】

成果（強み）と課題（弱み）の背景についての考察は、これまでの指導の状況、子どもたちの日々の姿などに基づいて総合的に行います。これについても、学校として重点的に取り組んできたことがベースとなります。一般的な流れは、次のとおりです。



この時期には、どの学校でも年度の取組を振り返り、学校評価（自己評価）を行います。ステップ2は、学校評価（自己評価）の一つに位置付けることができます。

ステップ3 【改善策の立案と実施】

学年、教科ごとに学力調査の結果から得られた成果と課題、その背景を考察したうえで、一番大切なのは「できることからすぐに取りかかる」ことです。学級や教科ごとに取り組むべきこと、「明日から、これだけはきちんとやっつけていこう」ということを教職員で共有して全体で取り組んでいくことがあると思いますが、**大切なのは実践です**。結果を踏まえた指導の改善を図り、子どもたちが今年度中に身に付けるべき学力をきちんと身に付けて進級、進学できるような指導を各学校において充実させていただきたいと思えます。

学校全体としては、時間をかけてじっくりと取り組むべきことを、次年度の重点として、来年度の教育課程の編成に反映させることもありますが、**現在の教職員集団で取り組んできた結果としての課題のうち、今年度中に解決をめざして取り組んだこと（重点の徹底や補充指導が必要な内容など）は、次年度にできるだけ持ち越さないようにする**ということが大切です。

職員会議のプログラム例

ステップ1から3まで述べた取組をできるだけ時間をかけずに行うための職員会議のプログラム例は次のとおりです。学校種、学校規模等の実態に応じて、アレンジしてください。

1 事前の準備

- ① 学力調査結果を学級担任、教科担任に配付する。
- ② 担任は学校で重点的に取り組んでいる取組に応じて、成果や課題を簡潔にまとめる。
(小学校はすべての教科ではなく重点教科にしぼって行うことも考えられます。こまめを職員会議までにやっておくとよいと思います。)

2 職員会議の流れ

…ねらいは「明日から取り組むことの確認と共有」

- ① 学級、学年、教科等の課題の共有（10分程度）
全体で成果や課題を共有し、学校全体の成果（強み）や課題（弱み）を確認する。
- ② 成果（強み）と課題（弱み）の背景・要因についての考察（20分程度）
調査結果などをもとにしながら、グループごとに協議する。
- ③ 個別の改善策と学校全体の改善策についての協議（30分程度）
「個人としてすぐにとりかかること」「学校全体ですぐにとりかかること」をグループごとに協議する。
- ④ 各グループ協議の結果の共有（20分程度）
- ⑤ まとめ・・・今後の取組の確認

3 事後のまとめ

- ① 管理職等を中心に、今後の取組のポイントをまとめ、教職員に配付するなどして、共通理解を図る。